



K.C. News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会
京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202 <http://kyotifuku.jp> 発行人 樋口幸雄

- ◆ より良い支援を目指して 1
- ◆ 平成27年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して ... 2
- ◆ 第28回全国グループホーム等研修会 九州地区大会に参加して ... 3
- ◆ 新規加入施設紹介 3
- ◆ シリーズ がんばっています 4
- ◆ シリーズ こんにちは 5
- ◆ 平成28年度会議・研修・行事案内 6
- ◆ 2015年度収支決算報告書 7
- ◆ 2016年度京都知的障害者福祉施設協議会組織体制 ... 8
- ◆ 平成28年度広報部会部員紹介 8
- ◆ ちょっとお・し・え・て 8
- ◆ 新事務局員紹介 8



HOLYLAND

より良い支援を目指して — 環境・スキル・風通し —



京都知的障害者福祉施設協議会 会長 樋口 幸雄

本年度5月の総会において、平成28・29年度新役員体制が承認され、今年度より会長職を務めさせていただくことになりました。歴代の会長、役員の皆様方に続き、知的障がい福祉の充実と京都知福協の公器としての役割を果たすべく、微力ではありますが努力してまいりたいと考えております。皆様方のご協力よろしくお願いいたします。

一層強化しなければならぬと感じております。虐待は日常の支援の延長上にあります。施設管理者、職員一人ひとりがこの問題に真摯に向き合い、より良い支援を目指し、実践を積み重ねていく職場風土を築いていくことが虐待防止の唯一の道です。環境・スキル・風通しの視点から日々の支援を見直していきましよう。

法人化について

まず、このたびの熊本地震で亡くなられた方々、多くの被災された皆様に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。本会としましても、4月19日付で会員各施設に義援金募集についての協力要請をし、3,110,164円もの義援金を集めることができました。先般、5月26日と6月27日に日本知福協に送金したところですが、短期間にも関わらず、災害派遣も含め、迅速な対応をしていただきました皆様方に改めて心よりお礼を申し上げます。

今年、当協議会が創立され50周年を迎えます。これを契機に一般社団法人化に向け、活動を進めてまいりたいと思えます。障害者総合支援法3年後の見直し論議、次期報酬改定や差別解消法への対応と、まさに障がい福祉をとりまく状況は大きな変革期にあります。関係者が一致結束して多様な議論の場を作り、障がいのある方々の利益のために、そこで働く人たちの誇りある職場の確立のために積極的な政策提言を発信していかなければなりません。

虐待問題について

先日、京都府内における施設内虐待が昨年に続き新聞やテレビで大きく報道されました。被害に遭われたご利用者の方々に深くお詫び申し上げますとともに、当協議会の虐待防止に向けた取り組みを

結びに、今年度の多忙な業務が一段落するこの時期は職員の皆様方にはお疲れがでる時期でもあります。どうぞ体調にはお気遣いいただきますようお願いいたします。

平成28年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して

社会福祉法人 菊鉾会

テンドーハウス 施設長 加藤 正樹



橘文也会長

去る6月23日・24日の2日間にわたり、全国的障害関係施設長等会議が神奈川県横浜市で開催されました。開会式では冒頭、橘文也会長がこのたびの熊本県を中心とした「熊本地震」に対して、深い哀悼の意と被災された方々へのお悔やみ、当会としての可能な限りの支援を約束し、一刻も早い復興を願うとの力強い挨拶で始まりました。

【行政説明①】

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部福祉課長の内山博之氏から、障害保健福祉政策の動向について、いくつか話され、その中で特に、障害者総合支援法施行3年後の見直しについて、新たな地域

生活の展開、障害者のニーズに対するよりきめ細かな対応について、そして今年5月に成立した「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」及び児童福祉法の一部を改正する法律について詳しく話されました。どれも重要で、社会保障審議会障害者部会での審議されたことを窺わす内容でした。

【行政説明②】

厚生労働省社会・援護局福祉基盤課社会福祉法人制度改革推進室長の田中徹氏から、社会福祉法等改正について、①経営組織のガバナンスの強化、②事業運営の透明性の向上、③財務規律の強化、④評議員、⑤会計監査人制度、⑥控除対象財産について話されました。特に評議員会については選任方法などが大きく変わり、より法人の理念や経営状況を理解した中立的な立場の方が選任対象になるという説明でした。

【シンポジウム】

「社会福祉法人制度改革への対応」改正社会福祉法を受けて」と題して、社会福祉法人松深会理事長の武居敏氏、独立行政法人福祉医療機構経営サポートセンターコンサルティンググループリーダーの千葉正展氏、社会福祉法人同愛会理事長の菊地達美氏の3名のシンポジスト、助言者として厚生労働省社会・援護局福祉基盤課社会福祉法人制度改革推進室長の田中徹氏、司会は社会福祉法人常盤会理事長の久木元司氏でシンポジウムが開かれました。この中では、ガバナ

ス、地域公益活動、財務規律や社会福祉法人の今後の役割について、色々な意見が交わされました。終盤では、時代とともに世の中の情勢や社会福祉法人の在り方が変化している中、どうやってバランスをとっていくのか、色々な批判があるならそれは国民の期待であり、社会福祉法人はそれにしっかりと応えていくべきであるという締めくくりの言葉が印象に残りました。



シンポジウム

【2日目分科会】

「重度・高齢障害者の支援について」

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐の菅洋一郎氏の行政説明の後、「地域生活支援拠点モデル事業」について、とちのみ学園施設長の高澤茂夫氏、社会福祉法人みんなでいきる副理事長の片桐公彦氏の実践報告が、みろく園施設長の芦馬譲二氏の進行で行われました。両法人とも全国の先駆けとなる取り組みを実践され、今後、各地で支援拠点を構築していく上での参考として報告されました。

その後、「高齢障害者支援とその課題」と題して、ふみだす施設長の大垣勲男氏、湘南ゆうき村施設長の河原雄一氏の課題提起が、就労支援センター向陽園センター長の八柳律子氏の進行で行われました。それぞれから、介護保険サービスへの円滑な利用、計画相談支援や基盤づくりを含めて発表され、まさに待ったなしの高齢障害者問題に、参加者の皆さんは真剣に聞き入っていました。

この2日間の会議を通し、今回の法改正で示された社会福祉の在り方が大きく転換していくこと、そして私たち関係者もそれに伴って考え方を変えていかなければならないこと、また、今後増大していく重度・高齢障害者の方々に対しての支援の在り方など、改めて社会福祉法人の存在価値を問われる会議でした。

全国グループホーム等研修会に参加して

社会福祉法人世光福祉会 ベテスタの家 皆川晋也

7月21日～22日の2日間、「第28回全国グループホーム等研修会九州地区大会 in 福岡」がホテルニユーオータニ博多で開催されました。主題は「地域全体で支える体制の構築～これからの地域支援体制とは～」とされ、全国から900名を超える参加者がありました。

1日目の行政説明は主に障害者総合支援法の3年後の見直しについて説明されました。今後、地域生活支援拠点事業等の整備と地域生活を支援する新たなサービス（自立生活援助）の創設が重要になって来るのではないかと感じました。

2日目の実践報告では今回の障害者総合支援法にも盛り込まれた意思決定支援についての発題がありました。意思決定支援を行うにあたり、「障害者本人（以下、本人）に提案・体験・写真を指差しして本人が選んだ選択に対し、支援者は失敗したときのリスクを話すようにしている」、「本人に意思を確認したときに、そのときにはそう思われているのかもしれないが、後で意見が変わっていることもあるので、何度も本人に意思を確認するようにしている」、「意思決定を行う際、問題行動が起こった際にいきなり支援方法を変える



のではなく、丁寧にアセスメントを取り直したり、支援者一人だけで決めるのではなく情報共有を大切にしている」、ということでした。今回参加して、意思決定支援を行う上では本人の望みと支援者の見立てを一致させることが難しいので、日々疑問を持ちながら、本人の意思を探り続けることが大事だということを学ぶことが出来ました。

新規加入施設紹介

社会福祉法人 青谷学園 障害者支援施設 DO

管理者：白樫 孝
京都府城陽市中芦原20番地

- 施設種別(定員)：生活介護(40名)
施設入所支援(30名)



DOとは、Door Open の略で、障がいがある方が、地域社会に扉を開けるという意味です。

平成22年に授産施設から移行しましたので、リサイクル自転車作業や喫茶作業が活発ですが、他にも、ヨガ、スポーツチャンバラ、太鼓の達人など運動や音楽のプログラム、PTによる機能訓練、OTによるSSTや外部講師による音楽療法などを実施。また、アート展や地域でのふれあいミーティングを開催しています。

『生きる力』をつけるべく、施設方針は3つ。

- 【頭で考えず、心で想う】
- 【レクリエーションを大切にす】
- 【生きる喜びを実感する】



24年前より知福協に加入しておりましたが、昨年、当法人の全ての施設は、事情により脱会となりました。なんとか今年、DOのみ再加入することが出来ました。今後、よろしくお願い致します。

社会福祉法人 京都基督教福祉会 デイセンター ひまわり

管理者：大橋 良輝
京都市西京区椋原百々ヶ池23

- 施設種別(定員)：生活介護(20名)



デイセンターひまわりは知的障害のある方の生活介護事業所です。前身は共同作業所で制度の変遷や時代の流れにそってデイサービス、生活介護事業所と移り変わりました。しかしながら、我々の出発点となった作業所時代の良さを残し、作業を中心としたプログラムを立てています。『働き過ぎず』『遊び過ぎず』をモットーに作業と余暇活動のバランスを考えながら、日々の生活を過ごすことを目指しています。



作業内容は作業所時代よりメンバーも慣れ親しんだクッキー、木工製品、空き缶潰し、古紙回収を引き続き踏襲し、これらの作業及び製品販売等を通して社会参加の促進を図ればと考えています。

当施設の全活動においては、メンバーの個性やその人らしさを大切に、それぞれが毎日を楽しく有意義に過ごすことや各グループでの生活においてお互いを意識しあい、仲間と過ごす中で様々な経験を積み重ね、力を発揮できるような支援を計画し取り組んでいます。



◀ライフ・アシスト全景

シリーズがんばっています

児童デイサービス

くれよん三山木

総括部長：伊藤 佑将

▼美術部



業内容として5年間支援提供を行なった中で、設立目的であった「親亡き後をどうするか?」という課題に対して私達にもっと何か出来るのではないかとという考えのもと平成22年に集団療育を基本とした「児童デイくれよん」の支援を開始しました。児童デイが動き出してからは、買物、調理など生活する為に必要な力の向上・体力強化・興味関心の拡大・公共交通機関の利用練習を軸に18歳以降を意識したプログラムを組み支援提供を続けてきました。

児童デイのニードが開所時に想像していた以上に高かった為平成24年に2ヶ所目の「児童デイくれよん三山木」の支援を開始しました。デイが2ヶ所になった事で運営上、大変な事も多かったのですが、求めていた事が実現しました。それは、利用者

設置者である有限会社ライフ・アシストは平成17年に京田辺市大住で開設しました。

開所当初は成人の方を主な対象者としてスタートしたのですが、一ヶ月後には圧倒的に児童の多い利用者比率となりました。

居宅支援・短期入所を主な事業内容として

が増えた事で実年齢・発達年齢を考慮した細かなクラス分けが出来るようになった事で、

細かなクラス分けによってクラスごとの目標を設定した事で利用者・保護者・支援者にとって「くれよんに来る意味」がより明確になったのではないかと考えています。

くれよんの施設としての基本的な前進方法は、実際の支援を通してはもちろん、保護者・行政・学校・関係機関の方々と話をする中で「もつとこうしたい!」「こういう事できないかな?」「こういう枠組みが必要ではないか?」と支援者が悩み、考え、思いつく事からいつも始まります。

その結果、現在では開所時から運営している基本クラスに加え、全国制覇を目指すサッカーチームや美術展に出展する作品を制作する美術部、一人暮らしを目指す自立活動クラスなど、様々な特色を持った22個のクラスとリトミック・フラワー・機能訓練・音楽療法などの各種専門教室ができました。

現在くれよんでは京田辺市・久御山町・城陽市・精華町・木津川市・八幡市・井手町・宇治田原町・宇治市の9つの市町からご利用いただいています。その中には支援学校に在学されている方、地域の支援学級に通われている方、進学校に通われている方、児童発達支援で2歳からお預かりさせてもらうお子さんもおられます。

それぞれの利用者にとって、くれよんが居場所でありステップであり道標となり、社会に出る時に最高のパスが出せるように一緒に歩んでいけたらと思います。



▲集団音楽療法



▲クッキング (お弁当作り)



▲京田辺レーヴチャレンジカップ



社会福祉法人京都国際社会福祉協力会 京都市横大路学園

シリーズこんにちは 広報部員施設訪問記

訪問者：今西重人（あけぼの学園るりかい寮）



今回は、社会福祉法人京都国際社会福祉協力会「京都市横大路学園」（就労継続支援B型）に訪問をさせて頂きました。

京都市横大路学園は、

1987年に知的障害者通所授産施設として空き缶の再資源化施設として始まりました。1997年には缶・びん・ペットボトルの再資源施設となりましたが、2006年にはその役割を終えられ、2007年より「容器包装プラスチックリサイクル中間処理施設」として再稼働されました。ちなみに、缶・びん・ペットボトルの再資源施設は、隣接の同一法人が運営する京都市横大路福祉工場（就労継続支援A型）で引き続き取り組まれています。

訪問の当日、広大なゴミ処理施設の中にあるため、少し道に迷ってしまっただけですが、電話で再度場所を確認させて頂き無事到着しました。池永義昭施設長に出迎えて頂き、事業内容や利用者の方の作業の様子などを伺いました。

各地域の家庭から出され、集められた容器包装プラスチックが京都市のゴミ

リサイクル工程



ミ収集車によって一日平均12〜13トンが横大路学園のストックヤードに運搬されてきます。その資源ゴミが大型のベルトコンベアーで作業棟の2階に送られ、そこで利用者の方が不適物や異物を手で取り除かれていきます。そうして残った容器包装プラスチックが圧縮・梱包され製品となります。その後、その製品はリサイクルを行う会社へトラックで運ばれ、新たにプラスチック製品や原材料に加工されるそうです。現在51名の利用者の方が午前9時から午後4時まで休憩を挟みながら働いておられます。主な作業として容器包装プラスチックの選別作業をされ、利用者の方の状況に応じて、下請け作業やさをり織り等も取り組まれています。

池永施設長と一緒に施設内を見学させて頂きました。作業棟の外では、プラントスタッフの方がシャベルローダーやベルトコンベアーを操作され、資源ゴミ集積や製品の積み込み等をされています。作業棟の2階では、利用者の方が作業服、作業帽、安全靴、マスク、軍手、耐油手袋、耐油エプロンを身に付けて、次々に流れてくる資源ゴミの中から不適物や異物を取り除かれています。作業棟の一角の部屋では、一部の利用者の方

が下請け作業をされています。そこでは、利用者の方が工業部品を分担して組み立てや箱詰めをされたり、ボンドのラベル張りをされたりしていました。

再資源化という社会的な取り組みを通して、知的障害のある利用者の方、支援スタッフ、プラントスタッフが一緒に働かれている姿を見て、理想の社会参加を垣間見たように感じました。池永施設長のお話の中に「作業量だけではなく、利用者の方が個々に持つておられる力を出して働くことが大切である。また、京都市の指定管理者制により、社会的な役割を担った事業として働き、高い工賃を利用者に還元できています。」という言葉が印象的でした。

法人の理念は、『すべての人に働く喜びとのぞみ』であり、京都市横大路学園は、単なるリサイクル施設ではなく、『ひとをいかに、物をいかに』こと、労働を中心に据えない限り福祉に展望はない、ということ、実際に形にされていると感じました。

最後になりましたがお忙しい中、池永施設長並びにスタッフの方、元氣よく声をかけて頂いた利用者の方、取材にご協力頂き本当にありがとうございました。

平成28年度 会議・研修・行事案内

4月

第1回役員会
4月13日

緊急役員会
4月18日

総会
4月28日

8月

緊急役員会
8月3日

第3回役員会
8月18日

近畿地区第2回役員会
未定 開催地:兵庫

12月

福祉フォーラム
テーマ:成年後見制度について
12月3日 開催場所:京都テルサ

日中活動支援部会全国大会
12月5~6日 開催地:千葉

第39回近畿地区知的障害関係施設長会議
12月7~8日 開催地:奈良

近畿地区会長・事務局長会議
調整

第5回役員会(予定)

5月

近畿地区総会および第1回役員会
5月10日 開催地:兵庫

9月

全国知的障害福祉関係職員研究大会
9月7~9日 開催地:北海道

専門研修会
テーマ:自閉症療育と成人期の発達
講師:トモニ療育センター
河島淳子氏・高橋知恵子氏
9月17日 開催場所:京都社会福祉会館

1月

平成28年度知的障害者福祉施設職員研修
テーマ:アンダーコントロール
講師:みずき福祉会理事長 八王子平和の家 阿部美樹雄氏
1月20日 開催場所:烏丸御池:(和牛)登録会館

第12回近畿地区グループホーム等職員研修会
1月24日 開催地:京都

ミニコンサートの集い
1月25日 開催場所:府立文芸会館

障害者支援施設部会全国大会
1月30~31日 開催地:神奈川

6月

第1回相談支援部会
6月2日

第2回役員会
6月6日

第1回研修委員会
6月16日

第1回広報部会
6月17日

全国知的障害関係施設長等会議
6月23~24日 開催地:神奈川

10月

相談支援・就業セミナー
10月18~19日 開催地:東京

第17回全国障害者スポーツ大会
岩手大会
10月22~24日 開催地:岩手

知福協 全国会長・事務局長会議
10月27~28日 開催地:東京

第4回役員会(予定)
未定

2月

第53回近畿地区知的障害関係施設職員研修会
未定 開催地:滋賀

7月

第1回政策委員会
7月4日

第2回相談支援部会
7月20日

第2回研修委員会
7月20日

全国グループホーム等研修会
7月21~22日 開催地:福岡

第2回広報部会
7月29日

11月

地域支援セミナー
11月9~10日 開催地:神奈川

全国児童発達支援施設運営協議会
11月17~18日 開催地:広島

全国生産活動・就労支援部会職員研修会
11月18~19日 開催地:福岡

近畿地区第3回役員会
調整 開催地:兵庫

3月

近畿地区第4回役員会
未定 開催地:兵庫

部会協議会・全国支援スタッフ代表者会議
3月2~3日 開催地:東京

第6回役員会(予定)

現在調整中の行事

風せんバレーボール大会
未定

第40回幼児の集い
未定

お知らせ

京都会館の建て替え工事に伴って休止をしておりました「クラシックコンサートの集い」が、来年5月に再開できる予定となりました。
新しくなった「ロームシアター京都」でのコンサート鑑賞にご期待ください!

2015年度

(2016年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入合計	13,067,823
支出合計	8,907,290
差引残額	4,160,533

(残額は次年度へ繰越)

◆収入の部

(単位：円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
会費収入		8,480,000	8,596,750	116,750	
	1. 日本知福協会会費収入	3,140,000	3,163,000	23,000	
	2. 近畿知福協会会費収入	190,000	186,000	△ 4,000	
	3. 京都知福協会会費収入	5,150,000	5,247,750	97,750	
補助金収入		112,000	202,600	90,600	
	1. 京都府補助金収入	1,000	90,000	89,000	ミニコンサート補助金
	2. 京都市補助金収入	1,000	0	△ 1,000	
	3. 日本知福協補助金収入	110,000	112,600	2,600	地方会助成
寄付金収入		10,000	0	△ 10,000	
	1. 寄付金収入	10,000	0	△ 10,000	
委託金収入		1,800,000	1,800,000	0	
	1. 委託金収入	1,800,000	1,800,000	0	京都知的障害児者生活サポート協会
雑収入		101,100	152,801	51,701	
	1. 雑収入	1,000	152,620	151,620	預金利息・近畿地区職員研修会
	2. 研修参加費収入	100,000	0	△ 100,000	
	3. 事業振興基金利息収入	100	181	81	
繰越金		2,315,672	2,315,672	0	
	1. 繰越金	2,315,672	2,315,672	0	
収入合計		12,818,772	13,067,823	249,051	

◆支出の部

(単位：円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
分担金		3,630,000	3,643,200	13,200	
	1. 日本知福協会費支出	3,140,000	3,163,000	23,000	事務局経由分
	2. 近畿地区知福協会費支出	190,000	186,000	△ 4,000	@ 2,000 × 93
	3. 府市施設協議会分担金支出	300,000	294,200	△ 5,800	府施設協 224,000 市施連協 70,200
事務局費		5,480,000	3,996,462	△ 1,483,538	
	1. 職員雇用費	2,700,000	2,200,000	△ 500,000	
	2. 役員費	300,000	158,012	△ 141,988	郵送料、振込手数料、電話代
	3. 需用費	400,000	159,102	△ 240,898	事務用品、印刷代、ホームページ作成費等
	4. 備品費	200,000	0	△ 200,000	
	5. 旅費	800,000	556,284	△ 243,716	部会協議会、関係団体等会議出席、事務局等旅費
	6. 会議費	500,000	135,050	△ 364,950	役員会会場費等
	7. 慶弔費	50,000	14,104	△ 35,896	
	8. 雑費	50,000	99,510	49,510	支援機構会費 10,000 他
	9. 賃借料	480,000	480,000	0	
	10. 業務委託費		194,400	194,400	弁護士顧問料
部会活動費		1,100,000	911,789	△ 188,211	
	1. 広報部会活動費	700,000	561,882	△ 138,118	「知福協だより」等
	2. 行事・文化部会活動費	400,000	349,907	△ 50,093	幼児のつどい、風船バレー大会、ミニコンサート
委員会費		650,000	235,474	△ 414,526	
	1. 政策委員会費	100,000	54,490	△ 45,510	
	2. 研修委員会費	400,000	166,104	△ 233,896	
	3. 人権・倫理委員会費	100,000	4,880	△ 95,120	
	4. 支援スタッフ委員会	50,000	10,000	△ 40,000	
種別部会費		240,000	120,365	△ 119,635	
	1. 児童発達支援部会費	40,000	32,212	△ 7,788	部会研修会
	2. 障害者支援施設部会費	40,000	2,811	△ 37,189	
	3. 日中活動支援部会費	40,000	10,000	△ 30,000	部会研修会
	4. 生産活動・就労支援部会費	40,000	13,400	△ 26,600	部会研修会
	5. 地域支援部会費	40,000	29,730	△ 10,270	部会研修会
	6. 相談支援部会費	40,000	32,212	△ 7,788	部会研修会
積立金支出		0	0	0	
	1. 事業振興基金積立金支出	0	0	0	
予備費		1,718,772	0	△ 1,718,772	
支出合計		12,818,772	8,907,290	△ 3,911,482	

事業振興基金	1,094,609
--------	-----------

京都知的障害者福祉施設協議会 2016年度組織体制

〈会長〉

樋口 幸雄 (横手通り 43番地「庵」)

〈副会長〉

矢野 隆弘 (かしのき)
塩見 正人 (あまだ翠光園)
中西 昌哉 (ベテスタの家)
寺本 眞澄 (京都市ふしみ学園)

〈地域連絡会〉

京都府連絡会代表 樋口 幸雄
(横手通り 43番地「庵」)
京都市連絡会代表 中西 昌哉
(ベテスタの家)

〈特別委員会〉

政策委員会

委員長 樋口 幸雄 (横手通り 43番地「庵」)

研修委員会

委員長 菊池ゆかり (宇治川福祉の園)

人権・倫理委員会

委員長 廣幡 顕一 (京北やまぐにの郷)

〈事業部会〉

行事・文化部会

部会長 濱田 康寛
(障害者支援施設みずなぎ学園)
副部会長 川西 恒 (飛鳥井ワークセンター)

広報部会

部会長 森 亮
(修光学園ディアコニアセンター)
副部会長 西田 武志 (障害者支援施設 翼)

〈児童発達支援部会〉

(障害児入所支援、障害児通所支援)

部会長 渋谷 千鶴 (むくの木園)
副部会長 脇田 宣 (白川学園)

〈障害者支援施設部会〉

(障害者支援施設)

部会長 矢野 隆弘 (かしのき)
副部会長 山代 浩史 (障害者支援施設 凜)

〈日中活動支援部会〉

(生活介護、療養介護、自立訓練、

地域活動支援センター)

部会長 三宅 州人 (乙訓楽苑)
副部会長 辻村 憲隆 (城陽作業所)

〈生産活動・就労支援部会〉

(就労継続支援B型、就労継続支援A型、 就労移行支援)

部会長 加藤 正樹 (テンダーハウス)
副部会長 新谷 篤則 (まいづる作業所)

〈地域支援部会〉

(共同生活援助、自立訓練(宿泊型)、福祉ホーム、 居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援)

部会長 森 亮
(修光学園ディアコニアセンター)
副部会長 中西 昌哉 (ベテスタの家)
副部会長 庄林 幸子 (瑞穂寮)

〈相談支援部会〉

(相談支援事業、就業・生活支援センター、 重度障害者包括支援)

部会長 須河 浩一
(相談支援センターいづみ)
副部会長 守本 明
(天ヶ瀬学園相談支援事業所)

〈監事〉

丹 良一 (こぐま園)
平田 捷郎 (障害者支援施設あまびしゃ)

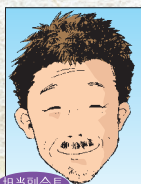
〈支援スタッフ委員会〉

委員長 瀧井 孝浩 (かしのき)

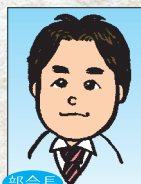
〈事務局〉

樋口 杏

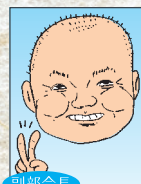
平成28年度 京都知福協広報部会 部員紹介



担当副会長
中西 昌哉
ベテスタの家



部会長
森 亮
修光学園ディアコニアセンター



副部会長
西田 武志
障害者支援施設 翼



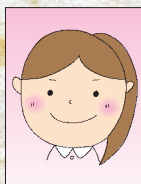
今西 重人
あけほの学園りゅうりく療



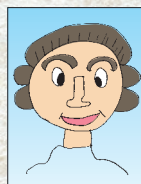
山崎 浩実
あしたーる工房



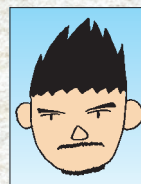
上原 裕一
あまだ翠光園



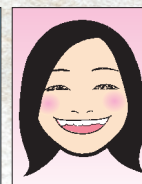
坂尾 絵美里
宇治川福祉の園



西 和也
さきょうの杜



岩田 稔
京都市大原野の杜



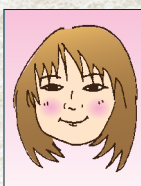
綾木 冴子
大照学園



西村 文孝
テンダーハウス



高雄 明
はなのき通所



天野 真弓
ひなどり学園



村田 智沙都
HOLYLAND

新事務局員紹介

樋口 杏

京都知的障害者福祉施設協議会 事務局
今年度から事務局員に着任しました、
樋口 杏です。役立つ情報をより早
くお伝えできるよう頑張ります。
よろしくお願いいたします。



ちょっとおしえてヘルプマーク

皆さんはヘルプマークをご存知でしょうか? 「内臓疾患を抱えている人など、助けが必要でも外見ではわかりづらい人が優先席に座っていると、辛い目にあうことが多い。何らかの支援が必要ではないか」という意見の元、2012年に東京都で制定され配布と普及に取り組みされてきました。今までは東京都だけの取り組みでしたが今年4月より西日本初として京都府でも配布が開始されました。既にバス等の交通機関でポスターを見かけられた方もおられるのではないのでしょうか。ヘルプマークの配布対象は上記のように援助や配慮を必要としている方であれば費用は無料で受け取ることができます。郵送は行っていませんので配布場所に行く必要がありますがご本人でなくご家族が代理で受け取ることができるようです。赤色と「+」マークは「助けを必要としている」という意味、ハートマークは「助ける気持ち」を意味しています。このマークを見かけたら電車内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等思いやりのある行動をお願いします。しがしまだまだ認知度が低いのが現状です。支援を必要とする方でもこのマークを知らないという方もおられるのでこのヘルプマークの存在を伝えるのが初めの手助けと言えるのではないのでしょうか。

企業・事業者を対象に啓発活動用としてHPにポスター等のデータがあり印刷して使用出来るようになっていますのでぜひ施設等でご活用ください。(西)

今回のK.C.NEWSが発行される頃には、もう真夏なんではないでしょうか。今回、初めて広報部の仕事に関わり、緊張する一方で広報部の仕事ってこんな感じなんやなくと、まるでいきなり都会へ来た田舎者のような好奇心もありました。昨年の12月未だに相談支援の仕事をしており、色々な方、色々な事業所と関わりを持つ機会をいただき世界が広がるという感覚がありました。今回も広報部に所属することにより相談支援とは全く意味合いが違いますが、他の事業所と関わりによって何かを得たいと思います。

チームによる支援ということがよく叫ばれます。一事業所の中だけではなく、一日24時間、家族も含め当事者の方々に関係する方々との連携やつながりもチームによる支援なんだと当たり前のことなのですが、相談支援という仕事に関わり実感することができました。この1月から同じ法人の生活介護サービスの部署へ異動しました。再び緊張なんです。ここでも人との出会いがあり、利用者の方々、ご家族、関係者の方々には色々な刺激や支援をいただいております。

人づきあいがへたくそな私ですが、これからは出会いを大切にしながら、刺激を受けながら仕事ができるほど感じる今日この頃です。(はなのき通所 高雄 明)

編集後記

今回のK.C.NEWSが発行される頃には、もう真夏なんではないでしょうか。今回、初めて広報部の仕事に関わり、緊張する一方で広報部の仕事ってこんな感じなんやなくと、まるでいきなり都会へ来た田舎者のような好奇心もありました。昨年の12月未だに相談支援の仕事をしており、色々な方、色々な事業所と関わりを持つ機会をいただき世界が広がるという感覚がありました。今回も広報部に所属することにより相談支援とは全く意味合いが違いますが、他の事業所と関わりによって何かを得たいと思います。